

## 改訂第3版の序

この本を手にした多くの若い皆さんは、英語を習い始めたときからポケットに入る電子辞書やパソコンでのインターネットが身近にあって使い慣れている世代だと思う。われわれもそういう時代が来ることを見越して、15年以上も前からWebでライフサイエンス辞書を制作、公開してきた。それなのに、なぜ今さらまた紙に印刷した辞書なのか？

パソコン、電子辞書、そして印刷辞書にはそれぞれ利点と欠点がある。電子媒体と比較した場合の書籍のメリットには次のようなことがあげられる。

- ①持ち運びやすく丈夫なこと
- ②安価なこと
- ③面積あたりの情報量が多いこと
- ④簡単に書き込みやマークができること

一方、書籍の最大の欠点は、収録できる情報量が実質的に限られることである。ページ数を増やせば情報を増やすことができる。しかしページ数の増大は検索に要する時間を増加させるため、使い勝手や効率が悪化する。したがって、冊子体には自ずと最適な情報の質と量というものが存在するはずである。

そのひとつの答えが本書である。われわれは今回の改訂で、医学や生命科学にこれから取り組もうとする初学者にとって「必要十分」な印刷辞書を目指した。本書に収録された英語は、実際に欧米の医学教科書や最新の論文で頻出する語句を解析して選ばれている。その過程で、カタカナにしか翻訳されない固有名詞の医薬品名や遺伝子名は最低必要限を採用した。また、頻度の少ない名詞と動詞の関係や形容詞の副詞形などを1つの見出し語にまとめて表示することで、一見して最大の理解が得られるように、時間をかけて絞り込みと整理を行った。その結果、英和見出しとして1万語、副見出しや派生語に約1,700語、用例に約5,000語が厳選されている。

本書に収録した英語の語彙は、中学レベルの基本800語を理解していると仮定して、活用形を含めると欧米の医学教科書テキストを93%までカバーできることを検証してある。この値は、10倍以上の語彙を収録した既存の医学辞典をはるかに凌駕している。それは出現頻度を詳細に解析して、最新の専門用語や略語を無駄なく収録しているからである。加えて、本書は教科書や論文でよく使われる動詞や形容詞も医学的な文脈で最適となる訳語とともに収録している。つまり、学習辞書と併用する必要がなく、すべてを1冊で調べやすく作ってある。

実際、本書が完成した後、京都大学薬学部3年生12名の協力の下に英語医学教科書翻訳の「randomized crossover trial」を実施し、種々の辞書と使いやすさを科学的に比較してみた。その結果、本書を用いた場合の翻訳スピードと成績は、驚いたことに高価な医学辞典を収録した電子辞書を用いた場合とまったく同等であった。また、学生の主観的満足度でも高い評価が得られた（結果は <http://lsd.pharm.kyoto-u.ac.jp/ja/document/archive/index.html> 参照）。

さらに、今回の改訂は英和の見直しだけに留まらず、和英索引に英語綴りを表示して引きやすくした。そうして英和・和英辞書の機能が1冊に凝縮され、英文執筆時の有用性も向上している。収録した日本語は国内の教科書や総説の解析からよく用いられている表記から選択されたものである。発音については、統一規格のない発音記号の表記をやめる代わりに、日本人が発音やアクセントを間違えやすい500語を厳選して見出し語にマークを施すとともに、出現頻度の高い最重要語、すべての動詞、特徴ある専門用語や重要単語の合計約3,500語について、複数の外国人の音声をパソコンや iPod で聞ける MP3 ファイルとしてダウンロードできるようにした。

医歯薬系学部あるいは生命科学を専攻する学科でライフサイエンスを学び始めた学生諸君、あるいは医学・バイオに関連する職場に新しく就かれた社会人の方々にとって、本書は必要にして十分な語彙と知識を参照できる唯一の辞書であると自信を持って推薦できる。インターネットで公開している WebLSD とはひと味違う内容の「濃さ」を味わってみたい。

2010年2月

編著者を代表して  
金子周司